



第7話 入貢（にゅうこう）

むかしむかし、あるところに、なまけものが一匹住んでいた。

なまけものが住んでいる国は、とても暖かい所だったんだけど、ある春の日、こんなうわさがたったんだ。

それは、今年の冬に、遠い国から冬将軍が攻めてくるといううわさだった。

なまけものは寒いのがうーんと苦手だったから、こう思った。

冬将軍に来てもらわないように、頼みに行かなきゃ。

手ぶらで頼みに行くのもなんなので、なまけものは冬将軍にプレゼントを持って行くことにした。

なにがいいかなあ

なまけものは考えた。

なまけものは寒いのがうーんと苦手だった。だからこう思った。

あったかーい、マフラーを作ってあげよう。

なまけものはゆっくりと編み棒を動かした。そしてゆるゆるのマフラーができあがった。しかしなまけものはゆっくりだったので、それができた時にはもう、なまけものの住む国へ冬将軍が片足を踏み入れていた。

なまけものはゆるゆるのマフラーを持って、冬将軍の下へ向かった。そして冬将軍が目の前に立った。

「冬将軍さん、わたしは寒いのがうーんと苦手なんです。だから、これを差し上げますから、どうか私の国には来ないでください。おねがいします」

冬将軍は複雑な気持ちだった。

こののろい生き物は、何を考えてマフラーなんか差し出すのだろう。自らが生み出す寒さから、自分を守れというのか。

冬将軍はなんと答えていいのかわからなかった。そしてただ、立ち止まっていた。

なまけものは必死でマフラーを差し出した。

しかし、寒さに弱いなまけもの。身震いすることもできなかった。

冬将軍は決意した。

ひゅるりと風でそのマフラーを巻き上げ、そしてふわりと首にかけた。なまけもの首に。閉じかけていたなまけもの目が開いた。そこには、去っていく冬将軍の後ろ姿が見えた。

「ありがとうございます。冬将軍」

なまけものは、暖かいねぐらへと帰って行った。

おわり

第8話 逸らす（そらす）

「つまり、こういうこと？」

僕は彼女から視線を逸らした。

「まあ、そういうことだけど」

「問題は、そこね」

「問題？答えがあるのかい」

「どうでもいいことじゃない。答えなんて。」

「どうでもよくはないよ。なんでそんな風に思うの？」

「問題は、問題自体にあるのよ。それには答えなんかない。ただその問題を解決すればいいだけ」

「だから、答えを出すってことだろ？」

「そうじゃないの。解決って言っても、その解決じゃなくって、なんていったらいいのかな。問題自体を取り消すっていうのか…」

「よく、わからないよ。」

「そうね。よくわからなくなってきたわ」

「まとまりがつかなくなったから、もうやめよう」

「問題から、目を逸らさないで！！それこそが、あなたの問題なのよ」

「それが答えかい？それなら、もう問題は解決したね。よかった。もう終わろう」

「違う！全然違う！問題は全く解決していない。そうなのよ。問題は、あなたが本来やらなければならないことから目を逸らしてしまうっていうこと。これはあなたの癖といってもいいわね。」

「目を逸らした先に、何が見えるんだろう。」

「そんなこと言ってんじゃないのよ！」

「うん、まあきっと君はそうだろうけどさ、ちょっと、ちょっとだけ考えてみて、今だけ。何があると思う？」

「うーんと、そうねー。なにか、未知のものかしら、それは」

「そうだろうな。いや、かえって、もう知ってるはずのもの。知っているのに、ずっと忘れていたものかもしれないな。うん、きっとそうだ。」

「忘れていたもの？」

「そうさ。例えば、茶の間と台所の間にかかっている、すだれ。それは毎日見ているものだけど、改めてみると、あれっ、こんなデザインだったっけ？となる。そんな感じのものなんだ、きっと。」

「へえ、そうかしら。」

「そうさ。そのとおりさ」

「じゃ、こんなのはどう？」

「なにさ？」

「時折降って来る雨の音」

「なんで？」

「知ってるはずなのに、いつも新鮮に聞こえるわ。たまにしか聞かないからかな」

「そう？それってなんか素敵だね」

「そう。まるで異国に来たみたいに思えるのよ」

「異国って、フランス？」

「いえ、イタリアだわ」

こうして彼氏は彼女との話題を逸らすのに成功したのだった。

【2016-10-16】指さし小説 第7話&第8話

すみません！第8話が連載日11月16日に配信できなかったため、先月配信した第7話にくっつけました。今回は、12月16日に配信の予定です。楽しみにしてくださった皆様、申し訳ございません！

第7話

今回のテーマは、「入貢」（にゅうこう）でしたー！また意味を知らない単語が出てきたのですが、外国の使節が貢ぎ物を持ってくることを指すらしいです。みつぎものって！なんだか古めかしい響きですね。そして、今回の主人公はなまけものにしたのですが、最近なまけもののぬいぐるみを買ってしまったことに起因するのであります。そしてなぜなまけものが好きなのかというと、小学生の時に、唯一できる鉄棒の大技（でもない）が、「なまけもの」という技だったからなのであります。片足と片腕だけで鉄棒にぶら下がり、ただそのままぶら下がっているだけというシンプルな技だったのですが、本当になまけものになった気分になれておすすめです。と、ということで、今回は冬の訪れを予感させる、季節感いっぱいの短編小説になりましたね。寒いので、風邪にお気をつけください。

第8話

今回のテーマは、「逸らす」でした。久しぶりに知ってる言葉で、ほっ問題から、目を逸らす。これは今の私そのものです。やらなきゃならないことをほったらかして、こんな小説を書いている...いや、これこそが、本当にやらなきゃならないことなんです！！ね、定期購読してくださってる皆さま！

<http://p.booklog.jp/book/110439>

著者：かっこ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/resipi77/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/110439>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/110439>

運営会社：株式会社ブクログ